

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長	村上 啓二	生徒指導主事	酒井 盛浩
-----	-----------	----	-------	--------	-------

<b>取組事例名</b>		『生徒のセルフエスティームを高める』			
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
<b>人間関係形成</b>		<b>社会参画</b>		<b>自己実現</b>	
「コミュニケーション能力」	2	「自己決定能力」	3	「自己理解・自らの自信」	1
<b>取組のねらい</b>					
<p>本校は、「夢を志にチャレンジ」を学校教育目標として、「たくましく生きる力を身に付け、自らの進路を切り拓き、地域に貢献できる生徒を育てる」ことをめざし、主体的な生徒の育成を図っている。その基盤として、「セルフエスティーム（自尊心）の向上」「自己指導能力の育成」「レジリエンス（心の回復力）の育成」に取り組んでいる。特にセルフエスティームの向上は、生徒が学校生活を送る上では最も重要なものであると自覚し、取り組みを進めている。</p>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫 『ほめる』</b>		
<p>プログラム「秘密の友だち」（1年生5月の学活で実施） 仲間に賞賛メッセージを贈る活動</p> <p>① 上手なほめ方を理解し、友達の個性をほめる練習をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>② 友だちの良いところを見つけて、そのことを相手に伝える。伝え方は、生徒の背中に手形を書いた紙を貼り、相手の良い面を手形の指に5人がそれぞれ書き込んでいく。</p> <p>③ 自分の手形に書かれたほめ言葉を読んだり、他の生徒と交流したりすることで、お互いに良いところを認め合うことの大切さを実感する。</p>			<p>『ほめ方のスキルを身につける』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学して学級での生活に慣れ、周りの生徒のマイナス面も見えてくる時期に行う。</li> <li>・「自分が短所であると思っていることも、見方を変えれば長所となる。」ということを道徳の授業と関連付ける。</li> </ul> <p>『お互いの存在を認め合う』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はプログラム実施の前に1人3人までほめる友だちを決め、3日間観察する。</li> <li>・教師は生徒の様子を見ながら助言し、ほめる相手が偏らないようにする。</li> </ul>		
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>○ 生徒アンケートの自己肯定感に係る項目「自分には良いところがある」の肯定的回答が6月、1月のアンケートとも79%であった。</p> <p>○ 「自分の良いところを友達が見つけてくれるのは、こんなにも嬉しいことかと感じた。」「これからも友達の良いところを見つけて伝えていきたい。」などの感想が挙げられ、学校生活の中でお互いをほめたり、認めたりする発言が増えた。</p> <p>● 取組を日々の授業の中で生かせなかったことである。今後は、日々の各教科、学活や道徳などの授業の中で、お互いの考えを尊重するような活動を意図的に取り入れていく。</p>					